

令和2年度 国語科

教科	国語	科目	現代文B	単位数	3単位	年次	3年次
使用教科書	新編現代文B 改訂版 (大修館書店)						
副教材等	チャレンジ常用漢字 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な漢字を読み書きできる力をつける。 ・文章を読解し、筆者の主張や登場人物の心情を理解する力をつける。 ・作文などの文章作成を通して、文章を書く力を身につける。

2 学習の到達目標

<p>近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。</p>

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述の確認および分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述の確認および分析 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査 ・小テスト
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>					

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	若い人たちへ	教材 「どんな人になりたかったか？」	○			◎	○	a: 表現されている人物像に着目し、未来の自分の姿や将来の夢について考えを深めようとしている。 d: 表現されている人物像に着目し、未来の自分の姿や将来の夢について考えを深めている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	小説を楽しむ(二)	教材 「おぼろ月」	○			◎	○	a: 情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 d: 情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e: 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	伝統を受け継ぐ	教材 「ひかりのどけき春の日に—日本人と桜」	○			◎	○	a: 古典の現代における意味や日本文化の特質について、考えを深めようとしている。 d: 古典の現代における意味や日本文化の特質について、考えを深めている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

	短歌・俳句に親しむ	教材 「短歌」「俳句」	◎	○	○	○	a:人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。 c:文章の形態や文体、語句などに合った適切な表現の仕方書いている。 e: 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査	
二学期	名作を読む(二)	教材 「こころ」	○		◎	○	a: 近代文学の名作を味わい、場面の推移や登場人物の心情の移り変わりを読み取ろうとしている。 d: 近代文学の名作を味わい、場面の推移や登場人物の心情の移り変わりを読み取ろうとしている。 e: 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査	
	現代を考える	教材 「家族化するペット」			○	◎	○	c:文章の形態や文体、語句などに合った適切な表現の仕方書いている。 d: 現代社会の問題点について筆者の主張を読み取り、考えを深めている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	c:記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	社会に生きる	教材 「政治の基本は民主主義」	○			◎	○	a:筆者の考えを読み取り、社会について考えようとしている。 d: 筆者の考えを読み取り、社会について考えを深めている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

令和2年度 国語科

教科	国語	科目	現代文B	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	新編現代文B 改訂版 (大修館書店)						
副教材等	新版チャレンジ常用漢字 (第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・一般的な漢字を正しく読み書きできる力をつけます。
- ・文章を読んで、筆者の主張や人物の心情を読み取れる力をつけます。
- ・自分の意見・心情を読み手に分かりやすく伝えられる文章を書く力をつけます。
- ・授業準備をきちんと行う。課題をきちんと提出する・メリハリをつけて授業を受けるなど、最低限の礼節を持って、進んで授業を受けることを意識しましょう。

2 学習の到達目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話したり、話したりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	・行動の観察 ・記述の点検	・行動の観察	・記述の確認および分析	・記述の確認および分析 ・定期考査	・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査 ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	ユーモアと心のゆとり	教材 ももこのいきもの図鑑	○			◎	○	a:ユーモアに富んだ文章を読むことに興味を持っている。 d:擬人的な表現や誇張した表現など、表現上のおもしろさに気づいている。 e: 語句の意味を正しく理解し、漢字を正しく読み書きしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	明日をひらく	教材 「迷う」力のすばらしさ	○			◎	○	a:教材文の内容をふまえ、「迷う」力について、自分の問題として考えようとしている。 d:筆者の主張と過去の体験との関連を読み取っている。 e:語句の意味を正しく理解し、漢字を正しく読み書きしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	小説を楽しむ(一)	教材 ナイン	○			◎	○	a:小説を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人間、社会などについて考えを深めようとしている。 d:作品の主題を読み取り、主題についての自分の考えを深めている。 e: 語句の意味を正しく理解し、漢字を正しく読み書きしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
二学期	ユーモアと心のゆとり	教材 祖母が笑うということ	○			◎	○	a:「僕」と祖母のやりとりに興味をもち、教材文を読み味わっている。 d: 作品の主題を読み取り、主題についての自分の考えを深めている。 e: 語句の意味を正しく理解し、漢字を正しく読み書きしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

暮らしの中のことば	教材 言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの	○			◎	○	a:教材文に興味を持ち、日本語の豊かさについて関心を深めている。 d:筆者の主張を読み取り、伝統的な日本語を受け継ぐことの大切さについて、理解を深めている。 e:伝統的な日本語についての知識を広げている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認と分析及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
暮らしの中のことば	教材 情報の力関係	○			◎	○	a:メディアと情報の力関係について考えようとしている。 d:文章と図の対応関係に注意して読んでいる。 e:「メディア」という語句の意味を的確につかみ、教材文の文脈の中で理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認と分析及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
詩を味わう	教材 六月	○			◎	○	a:近現代の詩の名作に興味をもち、積極的に音読したり、作品を味わったりしている。 d:作品を音読し、リズムや響きなどを味わうとともに、詩のおもしろさや主題について考えを深めている。 e:詩の作者や形式についての知識を持っている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認と分析及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
	教材 待合室	○	○		◎	○	a: 情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえようとしている。 b: 相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合っている。 d:情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。 e:文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a. b: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

令和2年度 国語科

教科	国語	科目	国語総合	単位数	4単位	年次	1年次
使用教科書	新編国語総合（第一学習社）						
副教材等	常用漢字ダブルクリア 三訂版（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・1年生では社会人に必要となる基礎的な国語の力を身に付けることを心がけましょう。 ・様々な文章を「読む能力」を向上させるとともに、コミュニケーションのための、「話す・聞く能力」や意思を伝えるための「書く能力」をしっかりと身に付けてください。 ・古典の時間では、有名な古文と漢文の作品に親しむとともに、正しく心情等を理解するために語彙力や文法の知識をしっかりと身に付けてください。 ・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2 学習の到達目標

<p>国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。</p>

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観 点 の 趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	行動の観察 記述の点検	行動の観察	記述の確認及び分析	記述の確認及び分析 定期考査	行動の観察 記述の確認 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	新しい出会い	【現代文】 教材:「挨拶上手」	○			◎	○	a:筆者の日常的エピソードから、「挨拶」がいかに大切なものかを読み取るようとしている。 d:「挨拶」や「名前を覚えること」を通して、普段から身の回りにありながら意識していなかったものに「改めて出会うことができる」という筆者の考えを読み取ることができている。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	小説を読む(一)	【現代文】 教材:「指」	○			◎	○	a:登場人物の言動から、直接説明されない心の動きを読み取るようとしている。 d:特徴ある表現の効果を考えようとしている。 e:文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	詩の楽しみ	【現代文】 教材:「道程」	○	○	○	◎	○	a:詩の中の言葉にこめられた、固有の意味を理解し、散文との違いを理解しようとしている b: 相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合っている。 c:文章の形態や文体、語句などに合った適切な表現の仕方を書いている d:主題を通して作者の思想を理解し、また作者の生きた時代や社会についても理解を深めようとしている e:作品固有の表記、表現について、理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 b:行動の観察 c:記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

	古文に親しむ	【古典】 教材: 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」	○			◎	○	a: 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。 d: 文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めようとしている。 e: 話すこと・聞くことに必要な文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	物語を楽しむ	【古典】 教材: 『伊勢物語』 「筒井筒」	○			◎	○	a: 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 d: 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
2学期	生活の中の表現	【現代文】 教材:「日本語のこころ」	○			◎	○	a: 生徒が自分自身の話している言葉に対して、より自覚的・意識的になろうとし、「言葉の理解・表現」についてより積極的に学ぼうとしている。 d: 普段使っている日本語の表現を見つめなおし、外国語の表現との比較を通し、筆者の述べる日本語の特徴を読み取っている。 e: 文章構成における対比関係がどのような効果をもっているかを理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

小説を読む(二)	<p>【現代文】 教材:「羅生門」</p>	○	○	○	◎	○	<p>a:人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付こうとしている。 b: 相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合っている。 c:文章の形態や文体、語句などに合った適切な表現の仕方を書いている d: 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。 e:文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。</p>	<p>a: 行動の観察及び記述の点検 b: 行動の観察 c: 記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査</p>
人間の風景	<p>【現代文】 教材:「十六歳のとき」</p>	○			◎	○	<p>a:教材の学習を通して、自らを取り巻く「人間の風景」というものを見つめ直し、「人間の風景」とはいかなるものかを読み解けている。 d:旅が「世界を相対化して見る目を初めて与えてくれた」とはどのような意味か、筆者の経験を押さえつつ理解している。 e: 正しく理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。</p>	<p>a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査</p>
随筆を読む	<p>【古典】 教材: 『枕草子』 「春は、あけぼの」 『徒然草』 「仁和寺にある法師」 『沙石集』 「三文にて齒二つ」</p>	○			◎	○	<p>a:文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 d: 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 e:古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。</p>	<p>a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査</p>

	古典の詩歌	【古典】 教材: 『奥の細道』 「旅立ち」	○			◎	○	a: 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 d: 文章に描かれている情景を、文や文章、語句などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身につけている。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
3 学期	小説を読む(二)	【現代文】 教材:「よだかの星」	○			◎	○	a: 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付こうとしている。 d: 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などに果たしている効果に気付いている。 e: 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査
	短歌の世界	【現代文】 教材:「大切な言葉」	○			◎	○	a: 人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付こうとしている。 d: 人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 e: 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 d: 記述の確認と分析及び定期考査 e: 小テスト及び定期考査

令和2年度 国語科

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	国語表現（大修館書店）						
副教材等	いきいきとアライブ国語常識（浜島書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・敬語などの国語常識の力を養う。 ・作文、小論文の作成を通して文章を書く力をつける。 ・スピーチやプレゼンテーションを通して、適切で効果的な発表の仕方について学ぶ。

2 学習の到達目標

<p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述の確認および分析 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の観察 ・記述の確認 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	書いて伝える	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉 敬語 常体と敬体 接続詞 絵を言葉にする 	○		◎	○	a:聞き取った内容をまとめ、適切な言葉で表現しようとしている。 c:相手へ伝わりやすい表現を考え、適切な言葉で表現している。 d:適切な表現方法を理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 c:記述の確認と分析及び定期考査 d:記述の確認及び定期考査
	小論文	<ul style="list-style-type: none"> 意見を論理的に書く 	○		◎	○	a:小論文の基本を捉え、適切な表現の仕方を書こうとしている。 c:小論文の基本を捉え、適切な表現の仕方を書いている。 d:適切な表現方法を理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 c:記述の確認と分析及び定期考査 d:記述の確認及び定期考査
二学期	小論文	<ul style="list-style-type: none"> 反論を想定して書く 統計資料を読む 統計資料を読み取って書く 	○		◎	○	a:小論文の実践について理解し、適切な表現の仕方を書こうとしている。 c:小論文の実践について理解し、適切な表現の仕方を書いている。 d:適切な表現方法を理解している。	a:行動の観察及び記述の点検 c:記述の確認と分析及び定期考査 d:記述の確認及び定期考査

三学期	声とコミュニケーション	・傾聴 ・聞き取り ・ショートスピーチをしよう	○	◎	○	a: 聞き手の共感を得られるよう、発表の内容に積極的な工夫を加えようとしている。 b: 聞き手の共感を得られるよう、発表の内容に積極的な工夫を加えている。 d: 適切な表現方法を理解している。	a: 行動の観察及び記述の点検 b: 行動の確認 d: 記述の確認及び行動の観察
-----	-------------	-------------------------------	---	---	---	--	--

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力
c: 書く能力 d: 知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。

令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	世界史A (東京書籍出版)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な基礎知識の充実をはかる。 ・歴史的事象に「なぜ」の視点を持ち、背景を理解する。 ・歴史を背景とした世界の国の諸事情や地理的条件などを関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 学習の到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れをわが国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化をふまえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・ワークシートの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・グループワークでの発表 ・ワークシートの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・各国歴史年表の作成ならびに読み取り ・各国領域図作成ならびに変化を理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価 規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	東アジア世界	東アジアにおける中国の役割と歴史を知ること、中国に対する理解や知識を身につける。ニュースなどの報道を鵜呑みにするのではなく、自らの力で考え、情報の取捨選択する力を身につける。	○	○	○	○	a: 提出物の提出 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
	南アジア世界とイスラーム世界	南アジアの様々な宗教観に触れることで、様々な文化や思想の違いに触れる。また、色々な考え方に触れて考える力を身につける。イスラーム世界(西アジア)における宗教観・民族観に触れることで、現在ある民族紛争や内戦について考える力を身につける。	○	○	○	○	a: 提出物の提出 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
2 学期	ヨーロッパ世界とユーラシアの交流圏	海と陸を結ぶ多様なネットワークが発達、内陸アジアや沿岸部に大交流圏が成立したことを扱う。流通ネットワークを扱い、今日の流通と比較することで、新たな文化・風習の形成を理解させる。	○	○	○	○	a: 提出物の提出 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
	一体化する世界	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立、大西洋貿易を扱う。16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特徴とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。	○	○	○	○	a: 提出物の提出 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況
3 学期	現代の世界と日本	産業革命以降の世界の変革を取り扱い、現代世界の基盤となる体制について理解させる。2つの大戦、東西冷戦等の国際情勢を踏まえ、今後の世界のあり方について考える力を身につける。	○	○	○	○	a: 提出物の提出 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付

けている。

学校番号	202
------	-----

令和2年度 地理歴史科

教科	社会科	科目	地理A	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	高等学校 新版 地理A 世界に目を向け、地域を学ぶ (第一学習社)						
副教材等	地歴高等地図—現代社会とその歴史的背景— (帝国書院)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

この授業では、身近な地域の生活や文化、あるいは世界の異なる生活や文化を学習していきます。

2 学習の到達目標

現代世界の地理的な諸課題を地域制や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と素質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	現代世界の地理的事象から諸課題を見だし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業への取り組み 授業プリントへの記入 提出物の提出状況	授業プリントへの記入 グループワークでの貢献・発表	地図への着色作業 地図への書き込み作業 地図の読み取り作業	考査による理解度

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4 5	第1章 地球儀や地図 でとらえる現代 社会 中間考査	地球儀と世界地図との比較、 様々な世界地図の読図などを 通して、地理的技能を身に付 けさせるとともに、方位や時差、 日本の位置と領域、国家間の 結びつきなどについてとらえさ せる。	○		○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b: 授業プリント c:読図 d:考査による理解度	地図作業等、プ リントを使い、そ の取組状況や 提出状況も評 価に取り入れ る。 1学期中間考査
6 7	第2章 世界の人々の 生活を取り巻く 地理的環境 期末考査	生活と宗教との関わりなどにつ いて考察させるとともに、日本と の共通性や異質性に着目さ せ、異なる習慣や価値観など をもっている人々と共存してい くことの意義に気づかせる。	○		○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:授業プリント c:読図 d:考査による理解度	地図作業等、プ リントを使い、そ の取組状況や 提出状況も評 価に取り入れ る。 1学期期末考査 夏季の課題
8 9 10 11 12	第3章 世界の諸地域 の生活・文化と 環境 中間考査 期末考査	世界諸地域の生活・文化につ いて世界を広く大観する学習と 事例学習を通して考察する学 習を組み合わせで行う。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:授業プリント c:着色作業 d:考査による理解度	地図作業等、プ リントを使い、そ の取組状況や 提出状況も評 価に取り入れ る。 2学期中間考査 2学期期末考査
1 2 3	第4章 さまざまな地球 的課題 学年末考査	環境、資源・エネルギー、人 口、食糧及び居住・都市問題 を地球的及び地域的視野から とらえ、地球的課題は地域を越 えた課題であることを理解さ せ、それらの課題の解決には 持続可能な社会の実現を目指 した各国の取り組みや国際協 力が必要であることについて考 察させる。	○	○	○	○	a:提出物の提出 授業への取り組み b:授業プリント c:地図作業 d:考査による理解度	地図作業等、プ リントを使い、そ の取組状況や 提出状況も評 価に取り入れ る 学年末考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史B	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「新選 日本史B」 (東京書籍)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・歴史という時間軸の中に、私たちの生活があることを感じる。
- ・歴史的事象に「なぜ」という疑問をもち、その背景を踏まえ、自分なりに理由を考える。
- ・歴史や世界の国の諸事情を踏まえ、現在・未来の日本のあり方を考える。

2 学習の到達目標

- ・諸史料を踏まえ、歴史的思考力を養う。
- ・我が国の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察することができる。
- ・我が国の伝統と文化の特色についての認識を深め、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・提出物の提出状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・グループワークでの貢献や発表 ・提出物の提出状況 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代歴史年表の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	第1章 1 原始社会の生活と文化 古代国家の形成と貴族文化の誕生	1 更新世の日本 2 縄文文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	2 農耕社会の形成と大陸文化の摂取	1 弥生文化と小国家の形成 2 大和王権と古墳文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	3 律令国家の形成と古代文化の展開	1 飛鳥の朝廷と文化 2 律令国家の成立と白鳳文化 3 平城京と天平文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査

	4 摂関政治と文化の和様化	1 平安遷都と唐風文化 2 貴族社会と摂関政治 3 国風文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
2 学期	第2章 1 中世社会の成立	1 院政と荘園 2 平氏政権の登場 3 鎌倉幕府の誕生 4 執権による政治 5 元寇と社会の変貌 6 鎌倉の仏教と文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	2 武家社会の形成と東アジア	1 室町幕府の創設 2 倭寇と東アジアの交易 3 下剋上の社会と戦国大名 4 室町文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査

3 学期	1 第3章 近世社会の成立と庶民文化の展開 ヨーロッパ文化との接触と国内統一	1 ヨーロッパ文化との接触 2 織豊政権による全国統一 3 桃山文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	2 幕藩体制の成立	1 江戸幕府と大名・朝廷 2 身分制度の確立 3 キリスト教禁止と鎖国	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
3 学期	3 近世社会の発達と町人文化	1 幕府政治の進展 2 経済と産業の発達 3 学問の新傾向と元禄文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達	1 幕藩体制の動揺と政治改革 2 幕藩体制の危機 3 新しい学問の形成と化政文化	○	○	○	○	a:提出物の提出状況 授業への取り組み b:ワークシート c:グループでの貢献や発表 d:考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史B	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高等学校 日本史B 新訂版 (清水書院)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察できる。
- ・現代の社会や国民生活の特色について、国際環境と関連付けて考察させ、世界の中での日本の立場について認識できる。
- ・客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確な理解に導けるとともに、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を身につける。

2 学習の到達目標

- ・我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ・我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培う。
- ・国際社会に主体的に生きるに日本国民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・提出物の提出状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・グループワークでの貢献や発表 ・提出物の提出状況 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・各国歴史年表の作成 ・各国領域図の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価 規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近世から近代社会へ	<ul style="list-style-type: none"> •どのような世界史的背景で日本は開港したのか •開港は社会にどのような影響をあたえたのだろうか •江戸幕府はどのようにして倒れたのだろうか 	○	○	○	○	a: 提出物の提出状況 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの貢献 や発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	明治維新と立憲国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> •新政府はどのような国家をめざしたのだろうか •政府はどのような産業政策をすすめたのだろうか •自由民権運動とはどのようなものだったか •立憲体制はどのようにして確立したのだろうか 	○	○	○	○	a: 提出物の提出状況 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの貢献 や発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
2学期	活 ア 近代産業の発展と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> •日清戦争前後の政治はどのようなものだったか •日露戦争とはどのような戦争だったのだろうか。 •近代産業はどのように発展していったのだろうか 	○	○	○	○	a: 提出物の提出状況 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの貢献 や発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
	第一次世界大戦と日本の社会	<ul style="list-style-type: none"> •第一次世界大戦にかけての日本外交のあり方は •第一次世界大戦は日本にどのような影響をあたえたか •アジア太平洋戦争はどのように始まったのか •戦時下の国民生活や社会のようすは 	○	○	○	○	a: 提出物の提出状況 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの貢献 や発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査
3学期	占領下の日本 経済大国日本への道現代 の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> •独立後の日本は国内再編をどのようにすすめたか •55年体制はどのようにして成立したのだろうか •高度経済成長はどのようにして始まったのだろうか 	○	○	○	○	a: 提出物の提出状況 授業への取り組み b: ワークシート c: グループでの貢献 や発表 d: 考査による理解度	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	高校 現代社会 新訂版（実教出版）						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- * 自分の考えを持ち、学習しながらそれを塗りかえていく作業。
- * 社会の原理と歴史を知り、自分を客観的に見る。
- * 常に世の中のできごとに疑問をもっておくことが、授業意欲を湧かせる。

2 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、社会の基本的な成り立ちや、現代社会の諸問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見出し、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通じて収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業への取り組み ワークシート	定期考査	資料の読み取り ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の 評価規準	評価 方法
			a	b	c	d		
1 学期	国際政治の動向 異なる人種・民族 との共存 国際社会と日本	国際政治と国際法を基礎として、人種・民族問題をより広く知り、共存共栄の道を具体的に考える。 さまざまな国際問題に対して、日本の役割と可能性を考え、それを実行する方策を考察する。	○	○	○	○	a:授業への取り組み b:定期考査 c:資料の読み取り d:定期考査	・授業へ意欲的に取り組んでいるか ・提出物 ・中間考査
	現代の経済社会と政府の役割	基礎基本的な経済理論を理解することで、経済社会の変容を多面的に捉える力を養う。現代の経済社会のしくみを学び、これからの経済社会の道筋を考える基礎とする。経済における社会の役割や個人の役割を理解し、現代社会の経済的な諸問題に対する関心・意欲を養う。	○	○	○	○	a:授業への取り組み b:定期考査 c:資料の読み取り d:定期考査	・授業へ意欲的に取り組んでいるか ・提出物 ・期末考査
2 学期	経済活動のあり方と国民福祉	日本経済のあゆみを学び、現代社会の経済的な諸問題（農業、消費者、公害、環境、労働、社会保障）に対する理解を深めることで、社会人としての自覚を芽生えさせる。	○	○	○	○	a:授業への取り組み b:定期考査 c:資料の読み取り d:定期考査	・授業へ意欲的に取り組んでいるか ・提出物 ・中間考査
	国際経済の動向	世界の国々の政治や経済について学んだ上で、グローバル経済における諸問題を理解させる。世界の経済格差や新興国の状況、広がる自由貿易協定、世界的な環境への取り組み、国際平和にむけて必要となる国際協力などを扱い、その上で国際社会における日本の役割を主体的に考えさせる。	○	○	○	○	a:授業への取り組み b:定期考査 c:資料の読み取り d:定期考査	・授業へ意欲的に取り組んでいるか ・提出物 ・期末考査
3 学期	共に生きる社会をめざして	持続可能な社会を考え、排除しない社会をつくるために必要なことを主体的に学ぶ。 その他、時事問題について考察し、今後の社会を創る担い手としての意識を培う。	○	○	○	○	a:授業への取り組み b:定期考査 c:資料の読み取り d:定期考査	・授業へ意欲的に取り組んでいるか ・提出物 ・学年末考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高校 政治・経済 新訂版（実教出版）						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治経済の現状を理解する。 ・現状を歴史的側面もふまえて理解する。 ・経済の基礎知識をまなび、それを生かす能力を身につける。 ・現代の諸問題の解決策を考える。
--

2 学習の到達目標

<p>広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：資料活用の技能	d：知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	授業への取組み ワークシート	授業への取組み ワークシート 定期考査	資料読み取り 情報活用	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の 評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構 第4章 現代日本の政治	民主政治とは何かを学ぶ 日本国憲法についての理解を深める 日本の政治機構についての理解を深める 日本の政治について理解する	○	○	○	○	a:授業への取組み ワークシート b:授業への取組み ワークシート c:資料読み取り 情報活用 d:定期考査	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 中間考査 期末考査
二学期	第5章 現代の国際政治 第2編 現代の経済 第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 第4章 世界経済と日本	国際政治の中の日本の役割について考える。また、日本の安全保障についての理解を深める 経済についての一般的知識を学ぶ。また、歴史的な面も理解した上で、日本経済の動向について関心を高める。 国際経済と国際収支について基本的知識を得る 民主主義の歴史を踏まえ、福祉の向上が国家の重要な事柄であることを学び、福祉の観点から経済を考える力を身につける。 世界経済における日本の役割を理解する。	○	○	○	○	a:授業への取組み ワークシート b:授業への取組み ワークシート c:資料読み取り 情報活用 d:定期考査	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 中間考査 期末考査
三学期	第3編 現代社会の諸課題	現代社会の諸課題・諸問題についての解決策を主体的に考える力を身につける。	○	○	○	○	a:授業への取組み ワークシート b:授業への取組み ワークシート c:資料読み取り 情報活用 d:定期考査	授業内容が知識として定着しているか。 授業に意欲的に参加しているか。 提出物の提出状況 学年末考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度

b:思考・判断・表現

c:資料活用の技能

d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 数学科

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3 単位	年次	1 年次
使用教科書	新版数学 I 新訂版 (実教出版)						
副教材等	ニューファースト 改訂 新数学 I (東京書籍)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業では、課題に対して自ら考え、周りの人とも協力して活動を行うことができる環境を作ります。

「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってより理解を深める」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。

家庭学習における課題は、定期的に提出します。最後まであきらめずに取り組みましょう。毎回の授業を大切に、休まないようにしましょう。

2 学習の到達目標

数と式、2 次関数、三角比、集合と論証、データの分析について理解し、身に付けた知識や技能を的確に活用できる。数学的な見方や考え方ができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c: 数学的な技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査 等を総合的に評価する

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1章 数と式	第1節 整式	○	○	○	○	a: 式の展開・因数分解に関心を持ち、目的に応じて式を変形する。 b: 式の展開と因数分解の相互の関係を理解し、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考えようとする。 c: 分母の有理化や無理数についての四則計算ができ、また見通しをもって式を展開・因数分解することができる。 d: 乗法公式や因数分解、1次不等式とその解の意味を理解し解を求めるための基本的な知識を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・中間考査 ・期末考査等を総合的に評価する
		第2節 実数	○	○	○	○		
		第3節 1次不等式	○	○	○	○		
2学期	第2章 二次関数	第1節 二次関数とそのグラフ	○	○	○	○	a: 2次関数とそのグラフについて関心を持ち、頂点や軸、グラフを描こうとする。 2次関数の値の変化に関心を持ち、具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用しようとする。 b: 2次関数の基本形を基に、そのグラフを平行移動して考察することができる。 c: 2次関数の式から、そのグラフをかくことができる。 2次関数のグラフや式を用いて、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 d: 2次関数について理解し、基本的な知識を身に付けている。 2次関数の最大値・最小値とその求め方を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査等を総合的に評価する
		第2節 グラフと方程式・不等式	○	○	○	○		

	第3章 図形と計量	第1節 三角比	○	○	○	○	a:具体的な事象を集合で表すよさについて理解しようとする。 補集合や部分集合について関心を持ち、具体的な事象を調べようとする。 b:正弦定理や余弦定理を導く過程を考察することができる。 鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c:三角比や正弦定理・余弦定理などを用いて平面図形や空間図形を計量することができる。 d:正弦・余弦および正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解している。 三角比を用いて、三角形の面積や正弦定理、余弦定理を導くことができる。	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査等を総合的に評価する
		第2節 三角比と図形の計量	○	○	○	○		
3学期	第4章 集合と論証	第1節 集合と論証	○	○	○	○	a:命題に関心を持ち、集合の包含関係と関連付けて調べようとする。 b:命題の真偽と集合の包含関係を関連付けて考察することができる。 c:集合の包含関係や数直線、命題の逆・裏・待遇などを用いて、命題の真偽を判断することができる。 d:条件の否定、命題の逆・裏・対偶について理解している。	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・ノート提出 ・学年末考査等を総合的に評価する
		第5章 データの分析	第1節 データ分析	○	○	○	○	a:データの散らばりを考えることの良さに気づき、調べようとする。 b:それぞれの代表値を読み取ることができる。 ・散らばりを表す数値から、データの散らばり具合を読み取ることができる。 c:いろいろなデータから散らばり、統計グラフを表すことができる。 d:それぞれのグラフの特徴、データの散らばりについて理解している。

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度

b:数学的な見方や考え方

c: 数学的な技能

d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅱ(選択)	単位数	4単位	年次	2年次
使用教科書	新版「数学Ⅱ」 新訂版 (実教出版)						
副教材等	アクセスノート 数学Ⅱ 改訂版 (実教出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周囲と協同して考える活動を行います。 ・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。 ・家庭学習における課題は、定期的に提出が必要です。最後まであきらめずに取り組みましょう。 ・休まないようにしましょう。
--

2 学習の到達目標

<p>図形と方程式の関係およびいろいろな関数について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、さまざまな事柄を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身につける。</p>
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数・対数、微分・積分の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数・対数、微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数・対数、微分・積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数・対数、微分・積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法		
			a	b	c	D				
1学期	いろいろな式	いろいろな式の計算	○	○	○	○	a: 数の体系を実数から複素数へと拡張する過程や複素数と方程式の計算に関心を持ち、それらを数の考察に活用しようとしている。 b: 数を複素数へと拡張してきた過程や複素数と方程式の計算について考察することができる。 c: 簡単な複素数といろいろな方程式についての計算ができる。 d: 数の世界を複素数まで拡張することの意義や図を用いて複素数を理解している。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等		
		複素数と方程式	○	○	○	○				
		等式と不等式の証明	○	○	○	○				
	図形と方程式	点と直線	○	○	○	○			a: 平面上の図形の性質とそのグラフについて関心を持ち、それらを図形と方程式の考察に活用しようとしている。 b: 平面上の図形の式とグラフを関係付けて考察することができる。 c: 直線や円の性質を考察でき、それらの方程式と不等式の計算をすることができる。 d: 直線や円の式やグラフの特徴、方程式と不等式の意味について理解している。	
		円	○	○	○	○				
		軌跡と領域	○	○	○	○				
2学期	三角関数	三角関数	○	○	○	○	a: 具体的な事象の考察に三角関数を活用しようとしている。 b: 三角関数の計算を行う過程を考察することができる。 c: 三角比からさらに発展した三角関数について理解し、さまざまな三角関数の計算をすることができる。加法定理を用いた計算をすることができる。 d: 三角関数の性質について理解している。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等		
		加法定理	○	○	○	○				
	指数・対数	指数関数	○	○	○	○				

		対数関数	○	○	○	○	<p>b: 指数・対数の計算を行う過程を考察することができる。</p> <p>c: 大きな数と小さな数の計算を扱うのに指数・対数が威力をもつことについて理解し、また、指数・対数の計算をすることができる。</p> <p>d: 指数と対数の性質について理解している。</p>	
3 学期	微分・積分	微分法	○	○	○	○	<p>a: 具体的な事象の考察に微分法と積分法を活用しようとしている。</p> <p>b: 微分と積分の計算を行う過程を考察することができる。</p> <p>c: 微分法と積分法について理解し、さまざまな関数に用いて微分と積分の計算をすることができる。さらに、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。</p> <p>d: 微分と積分の性質について理解している。</p>	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		微分法の応用	○	○	○	○		
		積分法	○	○	○	○		

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 数学的な見方や考え方
c: 数学的な技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	新版「数学Ⅱ」新訂版（実教出版）						
副教材等	アクセスノート数学Ⅱ 改訂版（実教出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、課題に対して自ら考え、周りの人とも協力して活動を行うことができる環境を作ります。

「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。

家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

毎回の授業を大切に、休まないようにしましょう。

2 学習の到達目標

いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評 価 方 法	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	いろいろな式	いろいろな式の計算	○	○	○	○	a: 数の体系を実数から複素数へと拡張する過程や複素数と方程式の計算に関心を持ち、それらを数の考察に活用しようとしている。 b: 数を複素数へと拡張してきた過程や複素数と方程式の計算について考察することができる。 c: 簡単な複素数といろいろな方程式についての計算ができる。 d: 数の世界を複素数まで拡張することの意義や図を用いて複素数を理解している。	確認テスト ワークシート 観察等
		複素数と方程式	○	○	○	○		
		等式と不等式の証明	○	○	○	○		
二学期	図形と方程式	点と直線	○	○	○	○	a: 平面上の図形の性質とそのグラフについて関心を持ち、それらを図形と方程式の考察に活用しようとしている。 b: 平面上の図形の式とグラフを関係付けて考察することができる。 c: 直線や円の性質を考察でき、それらの方程式と不等式の計算をすることができる。 d: 直線や円の式やグラフの特徴、方程式と不等式の意味について理解している。	確認テスト ワークシート 観察等
		円	○	○	○	○		
	指数・対数	指数関数・対数関数	○	○	○	○	a: 具体的な事象の考察に指数・対数を活用しようとしている。 b: 指数・対数の計算を行う過程を考察することができる。 c: 大きな数と小さな数の計算を扱うのに指数・対数が威力をもつことについて理解し、また、指数・対数の計算をすることができる。 d: 指数と対数の性質について理解している。	

三学期	微分・積分	微分法	○	○	○	○	a: 具体的な事象の考察に微分法と積分法を活用しようとしている。 b: 微分と積分の計算を行う過程を考察することができる。 c: 微分法と積分法について理解し、さまざまな関数に用いて微分と積分の計算をすることができる。さらに、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		微分法の応用	○	○	○	○	d: 微分と積分の性質について理解している。	

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 数学的な見方や考え方
c: 数学的な技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅲ	単位数	6単位	年次	3年次
使用教科書	新版「数学Ⅲ」新訂版（実教出版）						
副教材等	はぎとり式 練習ドリル 数学Ⅲ （数研出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。 ・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。 ・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2 学習の到達目標

<p>数平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。</p>
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	複素数、2次曲線、極限、微分、積分の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、複素数、2次曲線、極限、微分、積分における数学的な見方や考え方を身に付けている。	複素数、2次曲線、極限、微分、積分において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	複素数、2次曲線、極限、微分、積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト ワークシート レポート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	複素数平面	複素数平面	○	○	○	○	a: 数の体系を実数から複素数へと拡張する過程や複素数の計算に関心をもち、それらを数の考察に活用しようとしている。 b: 数を複素数へと拡張してきた過程や複素数の計算について考察することができる。 c: 簡単な複素数についての計算ができる。 d: 数を複素数まで拡張することの意義や図を用いて複素数を理解している。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		複素数と平面図形	○	○	○	○		
	平面上の曲線	2次曲線	○	○	○	○		
		媒介変数表示と極座標	○	○	○	○		
	関数と極限	関数	○	○	○	○		
		数列とその極限	○	○	○	○		
関数の極限		○	○	○	○			
2学期	微分法	○	○	○	○	a: 具体的な事象の考察に微分法を活用しようとしている。 b: 微分の計算を行う過程を考察することができる。	確認テスト 単元テスト ワークシート	

令和2年度 数学科

教科	数学科	科目	数学A	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「新版数学A」 (実教出版)						
副教材等	ニューファースト改訂新数学A (東京書籍)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業では、課題に対して自ら考え、周りの人とも協力して活動を行うことができる環境を作ります。

「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってより理解を深める」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。

家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

毎回の授業を大切にし、休まないようにしましょう。

2 学習の到達目標

場合の数と確率、整数の性質または図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また数学を通じて事象を論理的に考察する力を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率及び、整数の性質、または、図形の性質における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的な活動を通して、数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	場合の数と確率及び、整数の性質、または、図形の性質において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決していく。	場合の数と確率及び、整数の性質、または、図形の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	場合の数	集合の要素の個数	○	○	○	○	a: 不確定な事象を数学的にとらえることの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。 b: 順列・組合せなどの場合の数の求め方を身につけ、具体的な事象の確率を考察することができる。 c: 具体的な事象の起こりうる場合の数を順列や組合せの考えを用いて表現し、確率の基本性質を活用して、その確率を求めることができる。 d: 和の法則、積の法則、そして順列・組合せの考えを理解して、場合の数を求め、それから確率を求めるための知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査等を総合的に評価する
		順列	○	○	○	○		
		組合せ	○	○	○	○		
	確率	確率とその基本性質	○	○	○	○		
いろいろな確率の計算		○	○	○	○			
二学期	図形の性質	三角形の性質	○	○	○	a: 三角形や円など図形の性質に関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、問題の解決に活用しようとする。 b: 図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を見出し、論理的に考察することができる。 c: 図形の性質が論理的に正しいことを的確に表現することができる。 d: 図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査等を総合的に評価する 	
		円の性質	○	○	○			○
		作図	○	○	○			○
		空間図形	○	○	○			○
三学期	整数の性質	約数と倍数	○	○	○	a: 整数の性質について関心をもつとともに、それを事象の考察に活用しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出 	

		互除法と不定方程式	○	○	○	○	b: 素因数分解, ユークリッドの互除法などの方法を身につけ, さまざまな方法で整数の性質を考察することができる。 c: 整数の性質を用いて約数の個数, 最大公約数や最小公倍数, さらには二元一次方程式の整数解を求め, 文字を用いた式を解釈することができる。 d: 公約数や公倍数を求める方法を理解し, 数の表示や計算についての知識を身につけている。	状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する
		整数の性質の活用	○	○	○	○		

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 数学的な見方や考え方
c: 数学的な技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 数学科

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	新版 数学B 新訂版 (実教出版)						
副教材等	アクセスノート 数学B 改訂版 (実数出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業では、与えられた課題に対して自ら考え、周りの人とも協力して活動を行うことができる環境を目指します。

「まず課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程の中で、自分の考えを発表したり、周りの人と議論したりする活動を行います。

家庭学習における課題を、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずにきちんと取り組みましょう。

毎回の授業を大切にし、休まず集中して授業を受けるようにしましょう。

2 学習の到達目標

ベクトル、数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、さまざまな事柄を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身につける。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	ベクトル、数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指し、さまざまな事柄を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身につける。	数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。	数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決し、判断することができる。 設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。	数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 構成した数学的知識の意味を考え、更に見いだした数学的知識をいろいろな場面に活用できる。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・課題提出状況 ・小テスト ・中間考査 ・期末考査 等を総合的に評価する

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	数列	数列とその和	○	○	○	○	a: 等差数列や等比数列の一般項やその和について興味・関心をもち、取り組む。 b: 数列の一般項やその和を求める数学的な思考過程を発展的に捉えることができる。 c: 数列の特徴を理解し、一般項やその和を求める公式を適切に活用し、表現することができる。 d: 与えられた数列を適切に分類し、活用すべき公式を理解している。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		いろいろな数列	○	○	○	○		
		数学的帰納法	○	○	○	○		
二学期	平面上のベクトル	平面上のベクトル	○	○	○	○	a: 新しいベクトルの考え方や用語・記号を進んで習得しようとする態度を示す。 b: ベクトルの幾何的考え方のよさがわかる。ベクトルの加法・減法・実数倍などの代数的考え方がわかる。 c: ベクトルの加法・減法・実数倍、成分によるベクトルの演算やその大きさを求める過程を適切に表現し、処理すること	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		ベクトルの内積	○	○	○	○		

		ベクトルの応用	○	○	○	○	ができる。 d:ベクトルを図形的に捉え、その記号の表現方法を理解している。	
三学期	空間のベクトル	空間のベクトルとその演算	○	○	○	○	a:平面のベクトルから空間のベクトルへの拡張に興味を示す。空間図形において、ベクトルの内積や位置ベクトルを用いて考察しようとする。 b:平面のベクトルから空間のベクトルへ拡張して考察できる。ベクトルの内積や位置ベクトルを、平面から空間へ拡張して考察できる。 c:座標空間における図形を点の座標や距離を用いて表すことができる。平面のベクトルと同様にして、空間のベクトルを利用した表現・処理ができる。	確認テスト 単元テスト ワークシート 観察等
		空間ベクトルの応用	○	○	○	○	d:座標空間における図形の座標や距離を求めることができる。平面のベクトルと同様に、空間のベクトルでの知識・理解がある。空間においてもベクトルの内積を計算できる。ベクトルの基本性質が平面と同様であることを理解し、それを扱うことができる。	

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度
c:数学的な技能

b:数学的な見方や考え方
d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	化学	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	新編 化学(数研)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

化学(2年次)では、1年次に学習した化学基礎の知識をさらに深めるとともに、基礎から応用までの段階的な問題演習をとおして、化学を利用した入試等に対応できる力をつけていきます。

化学を受講するにあたって、化学基礎に比べて計算問題を多く扱うため、基礎的な計算力があること、また化学基礎でも扱った物質量「mol」について理解しており、物質量・体積・質量の変換がある程度できることが望ましいです。

2 学習の到達目標

物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通し、知的好奇心をもって問題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。また、化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解させる。物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、正しい物質感を身に付け自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	化学的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	化学的な現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現することができる。	観察・実験等を行い、基本的な操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、それらの現象を科学的に探求することができる。	基礎から応用まで、段階的な問題演習を通して学習内容の定着をはかる。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 提出物の提出状況 小テストの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 提出物の提出状況 小テストの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 実験の記録 定期考査の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 実験の記録 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期・2学期	物質の状態	1.物質の状態 2.気体の性質 ・気体の状態方程式 3.溶液の性質 ・希薄溶液の性質 ・コロイド 4.化学結合と固体の構造 ・結晶の種類と性質	○	○		○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 d: 物質の状態変化、状態間の平衡、溶液平衡及び溶液の性質について理解しているか。 ・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解しているか。 ・気体の状態方程式を理解しているか。 ・混合気体の全圧と分圧の関係について理解しているか。 ・沸点上昇、凝固点降下、浸透圧を定量的に取扱えるか。 ・コロイドおよび結晶の性質を理解しているか	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査
	化学反応とエネルギー	1.化学反応と熱・光 ・反応熱と熱化学方程式 ・ヘスの法則 ・光とエネルギー 2.電池と電気分解 ・水溶液の電気分解	○	○	○	○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 c: 実習課題の取り組みと完成度 d: 化学反応に関する概念や法則について理解しているか。 ・熱化学方程式がつけられるか。 ・ヘスの法則を理解しているか。 ・電池の原理および水溶液の電気分解における量的関係を理解しているか。 ・ファラデーの法則を用いて量的関係を扱う知識を身に付けているか	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察・実験
	化学反応の速さと平衡	1.化学反応の速さ ・反応速度を変える条件 ・反応のしくみ 2.化学平衡 ・可逆反応と化学平衡 ・平衡の移動 3.水溶液中の化学平衡 ・電離平衡 ・塩と化学平衡	○	○		○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 d: 確認問題および考査における理解度 ・反応速度と化学平衡に関する概念や法則について理解しているか。 ・反応の速さと濃度、圧力、温度との関係を理解しているか。 ・触媒の働きとその利用を学習する。	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査
学年末	無機物質質	1.周期表と元素 2.非金属元素の単体と化合物 3.典型金属元素の単体と化合物 4.遷移元素の単体と化合物 5.無機物質と人間生活	○	○	○	○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 c: 実習課題の取り組みと完成度 d: 確認問題および考査における理解度 ・元素の性質が周期表に基づいて整理できることについて理解しているか。	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察・実験

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度

b: 思考・判断・表現

c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	化学	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	改訂 新編 化学(東書)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

身のまわりにある食料・衣料・日用品の多くは有機化合物でできています。私たち自身も有機化合物からなっています。化学(3年次)では有機化合物の一般的な特徴や性質を体系的に理解し、分類できるようになるとともにその分析方法について学習します。

2 学習の到達目標

物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通し、知的好奇心をもって問題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。また、化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解する。物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、正しい物質感を身に付け自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を育成する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	化学的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。	化学的な現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現することができる。	観察・実験等を行い、基本的な操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、それらの現象を科学的に探求することができる。	基礎から応用まで、段階的な問題演習を通して学習内容の定着をはかる。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 提出物の提出状況 小テストの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 実験の考察 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 実験の手法・記録 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントおよびノートの記述 実験の記録・考察 小テストの取り組み 定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	有機化合物	1.有機化合物の特徴と構造 2.炭化水素 ・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素 ・有機化合物の分析 3.アルコールと関連化合物 ・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル ・油脂とセッケン	○	○	○	○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 c: 実験の取り組み態度 d: 確認問題および考査における理解度 ・有機化合物の特徴を理解しているか。 ・飽和炭化水素、不飽和炭化水素をそれぞれ理解しているか。 ・アルコールの関連化合物について理解しているか。	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・観察・実験 ・定期考査
2学期中間	有機化合物	1.芳香族化合物 ・芳香族炭化水素 ・酸素を含む芳香族炭化水素 ・窒素を含む芳香族炭化水素 2.有機化合物と人間生活 ・染料・医薬品 ・合成洗剤 ・食品	○	○	○	○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 c: 実験の取り組み態度 d: 確認問題および考査における理解度 ・芳香族炭化水素について理解しているか。 ・有機化合物が人間生活にどのように関わっているか理解しているか。	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察・実験
2学期期末	高分子化合物	1.天然高分子化合物 ・単糖類・二糖類 ・多糖類 ・アミノ酸 ・タンパク質 ・核酸 2.合成高分子化合物 ・合成繊維 ・プラスチック	○	○		○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 d: 確認問題および考査における理解度 ・単糖類・二糖類・多糖類の違いや種類を理解しているか。 ・アミノ酸、タンパク質について理解しているか。 ・合成高分子化合物の種類を理解しているか。	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査
学年末	高分子化合物	1.高分子化合物と人間生活 ・機能性高分子 ・プラスチックの再生処理	○	○		○	a: 授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 演習問題における完成度 d: 確認問題および考査における理解度	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 観察・実験の技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	改訂版 新編 化学基礎 (数研出版)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

私たちの身のまわりにある様々な「もの」をつくっている材料に注目したとき、その材料を「物質」といいます。この「物質」をつくっているのは非常に小さな粒子 (原子や分子) たちです。

化学基礎では、これらの粒子の性質や粒子どうしの結びつき・組み合わせによって様々な「物質」ができることを知り、そのようにしてできた「物質」がどのようにふるまうのか、またどのように変化するのか、について学習します。

2 学習の到達目標

化学は世界をつくっている「物質」について学ぶ学問であり、それらすべての物質は原子や分子などの粒子からできているという物質感を持って、日常の様々な現象を観察および考察・探求できることを目標とする。そのために、それぞれの粒子の特性や、粒子のふるまいにみられる原理・法則の理解、それらの粒子が構成する物質の性質および物質変化についての知識を身につける。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	化学的な現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを適切に表現することができる。	身近な現象の中に潜む化学の原理について、観察・実験等を行い、基本的な操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、それらの現象を科学的に探求することができる。	物質や化学現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントの記述 提出物の提出状況 小テストの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントの記述 提出物の提出状況 定期考査の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントの記述 実験の記録 定期考査の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業で用いるプリントの記述 実験の記録 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	物質の構成と化学結合	すべての物質は粒子からできているという物質感を持ち、これらの粒子の特性(元素記号・原子番号・質量数・同位体や電子配置の規則性)についての知識をつける。また、粒子のふるまいによる物質の状態変化について理解する。さらに、原子・分子・イオンの粒子間にはたらく結合(金属結合・イオン結合・共有結合や分子間力等)によって多様な物質ができることを理解する。また、それぞれの結合のしくみや特徴についての知識を身につける。	○	○	○	○	a:授業の取り組み、提出物の提出状況、理解しようとする意志 b:身近な化学的現象を、物質を構成する粒子の特性やふるまいによって説明できる c:炎色反応・物質の状態変化に関する探究活動を行い、実験器具の扱い方や化学的に探求する方法の習得とそれらの過程および結果を的確に記録・整理・考察できる。 d:物質の構成単位は粒子であることを理解し、物質を構成する粒子のふるまい方により、物質の状態が変化することを理解している。粒子間の結合の種類とそれぞれの結合のしくみを理解している。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察・実験
2学期	物質と化学反応式	物質を構成する粒子が非常に小さいことを理解した上で、粒子を定量的に扱うために相対質量を用いて原子量・分子量・式量を求めることができる。また、その中に含まれる粒子の個数について物質の概念を理解し、質量と物質の関係、さらに物質と気体の体積について関連付けることができる。化学反応における量的関係について理解し、化学反応式の係数比から物質、質量、気体の体積を求めることができる。	○	○		○	a: 授業の取り組み、提出物の提出状況、理解しようとする意志 b・d: 原子量・分子量・式量および物質の概念を理解している。 ・物質から質量および体積を求めることができる。 ・化学反応式が書け、化学反応式の係数比が各物質の物質比を表すことを理解している。 ・化学反応式の係数比から物質を求めることができ、さらに質量・気体の体積と関連付けられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査 ・観察・実験

3 学期	酸と塩基、酸化還元反応	酸・塩基の性質を理解し、中和反応と塩の生成について理解する。 酸素および水素の授受による酸化還元反応の定義に加え、酸化還元反応を電子の授受に基づいて理解するとともに、その応用として電池および電気分解について考察する。	○	○	○	○	a: 授業の取り組み、提出物の提出状況、理解しようとする意志 c: 酸・塩基の性質および中和に関する探究活動を行い、実験器具の扱い方や化学的に探求する方法の習得とそれらの過程および結果を的確に記録・整理・考察できる。 b・d: ・酸・塩基の性質について理解し、電離式を求められる。 ・中和反応を化学反応式で書くことができる。 ・電子の授受を伴う酸化還元について理解している ・酸化数を求めることができる ・基本的な酸化還元反応の化学反応式を書くことができる ・金属のイオン化傾向を理解している	・授業態度 ・出席状況 ・提出物の取り組み状況 ・小テスト ・定期考査
---------	-------------	---	---	---	---	---	---	---

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 観察・実験の技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点 ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	生物	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	生物 新訂版 (実教)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生命現象のしくみを通して、「生物」とは何なのかという問いに「細胞」「遺伝子」「生殖」「環境応答」などの視点から「生物」について迫ります。そして、我々も含めてすべての生物はつながっていることに気づき、広い視野をもって我々と自然について考え続けてください。

2 学習の到達目標

生物基礎で学んだ事を復習しながら、生体物質と細胞、DNA のはたらき、生殖と発生、生物の環境応答などについて理解を深め、生物のしくみをさらにくわしく学ぶ。そうした学習の中で、生命を尊重し、自然環境の保全および持続可能な社会について考え、自分なりに行動できる力を身につける。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、創意ある報告書の作成や発表を行わせること。	仮説の設定、実験の計画、情報の収集、調査、対照実験、データの解釈など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。	生物基礎との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 定期考査の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生命現象と物質	1.細胞と分子 ・生体物質と細胞 ・生命現象とタンパク質 2.代謝 ・代謝とエネルギー ・呼吸と発酵 ・光合成 ・窒素同化 3.遺伝情報の発現 ・DNAの複製 ・タンパク質の合成 ・バイオテクノロジー	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートの完成度、話し合いの記録 c:実験データの解釈と考察。 d: ・細胞のつくりを理解できたか。 ・代謝とエネルギーの関係を理解できたか。 ・呼吸と発酵のしくみを理解できたか。 ・光合成のしくみを理解できたか。 ・DNAの複製方法を理解できたか。 ・タンパク質の合成方法を理解できたか。 ・バイオテクノロジーについて理解できたか。	・定期考査 ・実験/観察の記録 ・提出物の取組み状況 ・出席状況
2学期	生殖と発生	1.有性生殖 ・染色体と遺伝子 ・減数分裂 ・遺伝子の伝わり方 2.動物の発生 ・配偶子形成と受精 ・初期の発生過程 ・形成体と誘導 3.植物の発生 ・配偶子形成と受精 ・胚形成と種子形成 ・植物器官分化	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートの完成度、話し合いの記録 c:受精卵の発生に関する取り組み、観察やスケッチができたか。 d: ・染色体と遺伝子の関係を理解できたか。 ・減数分裂のしくみを理解できたか。 ・遺伝子がどのように伝わるかを理解できたか。 ・動物の配偶子形成方法や受精のしくみを理解できたか。 ・動物の初期の発生過程を理解できたか。 ・形成体の役割と誘導のしくみを理解できたか。 ・植物の配偶子形成方法や受精のしくみを理解できたか。 ・胚と種子の形成について理解できたか。 ・植物の器官への分化について理解できたか。	・定期考査 ・実験/観察の記録 ・提出物の取組み状況 ・出席状況
学年末	生物の環境応答	1.動物の反応と行動 ・刺激の受容 ・神経の働き ・効果器 ・動物の行動	○	○		○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートの完成度 d: ・刺激の受容のしくみについて理解できたか。 ・神経や神経系の働きを理解できたか。 ・効果器について理解できたか。 ・動物の行動のしくみを理解できたか。	・定期考査 ・提出物の取組み状況 ・出席状況

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	高校生物基礎 新訂版 (実教)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

地球上には多様な生物が存在していますが、いずれの生物もいくつかの共通する性質を持っています。「生物」とは何なのか?この問いに「細胞」「遺伝子」「恒常性」「生態系」という視点から「生物」について迫ります。そして、我々も含めてすべての生物はつながっていることに気づき、広い視野をもって我々と自然について考え続けてください。

2 学習の到達目標

多様な生物も、基本的には細胞からなり、遺伝子として DNA を、エネルギーの受け渡しには ATP を使うという共通性を持つことを理解し、さらにそれらの個々の細胞の働きによって生物の内部環境は一定に保たれていることを学習する。そして地球上の多様な生物は気温や降水量等と密接な関係を持つ生態系を構成しており、すべての生物は物質循環とエネルギーの移動によってつながっていることに気づき、生命を尊重し、自然環境の保全および持続可能な社会について考え、自分なりに行動できる力を身につける。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	「探究活動」においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、創意ある報告書の作成や発表を行わせること。	仮説の設定、実験の計画、情報の収集、調査、対照実験、データの解釈など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。	中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成すること。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 定期考査の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況の観察 授業プリントやワークシートの記述 探究活動の記録・発表 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物の特徴	1節 生物の多様性と共通性 1.多様な生物とその祖先 2.細胞の構造と働き 2節 細胞とエネルギー 1.代謝とエネルギー 2.酵素 3.光合成 4.呼吸 5.ミトコンドリアと葉緑体の起源	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:実験ワークシートの完成度 c:顕微鏡の扱い方、観察材料に応じたプレパラートの作成法を習得できたか。 d:生物の共通性や多様性について理解できたか。 ・代謝、光合成、呼吸などについて理解できたか。 ・細胞小器官の起源について共生説の考え方が理解できたか。	・定期考査 ・実験/観察の記録 ・授業中の作業課題 ・ノート整理状態 ・出席状況
	遺伝子とその働き	1節 遺伝情報とDNA 1.ゲノムと遺伝子 2.DNA 研究の歴史 3.DNA の構造 2節 遺伝子情報の分配 1.細胞分裂とDNA 3節 遺伝情報とタンパク質の合成 1.遺伝子とタンパク質 2.タンパク質の合成 3.遺伝子の発現	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 実験ワークシートの完成度 c: パフの観察ができたか。 d: ・遺伝子の本体がDNAであることや、その構造が明らかにされるまでの歴史的な流れについて理解できたか。 ・タンパク質の合成の概要について理解できたか。	・定期考査 ・実験/観察の記録 ・授業中の作業課題 ・ノート整理状態 ・出席状況
2学期	生物の体内環境の維持	1節 体内環境 1.体内環境と恒常性 2.体液とその働き 3.体液の調節 2節 体内環境の維持のしくみ 1.自律神経系による調節 2.ホルモンによる調節 3.自律神経とホルモンによる調節 3節 免疫 1.生体防御と免疫 2.自然免疫のしくみ 3.獲得免疫のしくみ 4.ヒトと免疫	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 実験ワークシートの完成度 c:豚の腎臓解剖に取り組み、観察やスケッチができたか。 d: ・ヒトに備わる恒常性を維持するしくみの概要を理解できたか。 ・体内環境が自律神経系とホルモンによって維持されていることを理解できたか。 ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解できたか。	・定期考査 ・実験/観察の記録 ・授業中の作業課題 ・ノート整理状態 ・出席状況
3学期	生物の多様性と生態系	1節 植生と遷移 1.生物と環境のかかわり 2.植生とその構造 3.遷移と極相 2節 気候とバイオーム 1.バイオームの分布 3節 生態系と物質循環 1.生態系 2.エネルギーの流れと物質循環 4節 生態系のバランスと保全 1.生態系のバランス 2.人間生活と環境の変化 3.人間生活と生態系の変化 4.環境の保全	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b: 実験ワークシートの完成度 c:植生の観察に取り組み、調査できたか。 d: ・生物を取り囲む環境について理解できたか。 ・世界や日本の代表的なバイオームについて理解したか。 ・生態系の概要を理解できたか。 ・物質循環について理解できたか。 ・生態系を大きな生物ととらえ、安定した動的平衡状態を長く保つためにどのようにすればよいか考察できたか。	・定期考査 ・実験/観察の記録 ・授業中の作業課題 ・ノート整理状態 ・出席状況

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	地学基礎 新訂版 (実教)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

◇中学校での学習を振り返りつつ、身近なできごとと関連づけて、内容を絞って授業を進める。
 ◇視覚教材を用いたプリント学習を行い、学習内容を理解しやすいように努める。
 ◇観察・実習においては、その意図、観察や実習の方法や整理の仕方をていねいに指導する。

2 学習の到達目標

◇宇宙の誕生から現在の地球に至る過程を、空間的、時間的な広がりの中で理解する。
 ◇宇宙や地球で生じる現象への興味・関心を高める。
 ◇基本的な概念や原理・法則をもとに、宇宙や地球に対する科学的な見方や考え方を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	身近なできごととの関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境およびそこで生じる様々な現象について興味関心を持ち、地学的な事物・事象に対する探究心をもつ。	基本的な概念や原理・法則をもとに、宇宙や地球に対する科学的な見方や考え方を養う。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身につけている。	宇宙の誕生から現在の地球に至るまでの過程を、空間的および時間的な広がりの中で理解し、地学の基本的な概念や原理・法則を理解している。
評 価 方 法	遅刻・欠課の状況および授業への参加態度、授業プリントの提出状況によって評価する。	なぜそうなるのかを自分の言葉で論理的に説明できるか。	実習において説明どおりに作業が行えているか。	授業内容が知識として定着しているかを定期考査および授業内で行う確認問題で評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期中間	宇宙の進化と宇宙における地球	宇宙の構造と進化 ②ビッグバンと宇宙の進化 ②宇宙原理と宇宙の膨張 ③天体の誕生 ④銀河と天の川銀河 ⑤銀河の集団と宇宙の大規模構造	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートでの論述 c:実習課題の完成度 d:確認問題および考査における理解度	・授業内容が知識として定着しているか ・なぜそうなるのかを自分の言葉で論理的に説明できるか ・提出物の提出状況
1学期期末		太陽と惑星 ①太陽系の誕生と進化 ②惑星・小惑星・彗星の起源 ③太陽の進化とその最後 ④太陽の特徴 ⑤太陽の活動と地球への影響 ⑥地球型惑星と木星型惑星 ⑦太陽系の広がり地球	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートでの論述 c:実習課題の完成度 d:確認問題および考査における理解度	・授業内容が知識として定着しているか ・なぜそうなるのかを自分の言葉で論理的に説明できるか ・提出物の提出状況
2学期中間	地球の変遷と生物の進化	地球の変遷と生物の進化 ①原始地球の誕生 ②先カンブリア時代 ③古生代 ④中生代 ⑤新生代 ①地層の形成 ②地層と古環境	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートでの論述 c:実習課題の完成度 d:確認問題および考査における理解度	・授業内容が知識として定着しているか ・なぜそうなるのかを自分の言葉で論理的に説明できるか ・提出物の提出状況
2学期期末		地震 ②地球の構造 ③地球内部の動き ④プレートの境界 ①地震のメカニズム ②海溝の地震 ③活断層 ④地震による災害と防災	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートでの論述 c:実習課題の完成度 d:確認問題および考査における理解度	・授業内容が知識として定着しているか ・なぜそうなるのかを自分の言葉で論理的に説明できるか ・提出物の提出状況
学年末	変動する地球	火山 ①火山ができる場所 ②火山活動の多様性	○	○	○	○	a:授業への取り組みおよび提出物の提出状況 b:ワークシートでの論述 c:実習課題の完成度 d:確認問題および考査における理解度	・授業内容が知識として定着しているか ・なぜそうなるのかを自分の言葉で論理的に説明できるか ・提出物の提出状況

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:観察・実験の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- ・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和2年度 理科

教科	理科	科目	物理	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	物理（数研出版）						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

物理は、化学や生物、地学といった他の自然科学の基礎であるとともに、日常生活や社会を支える科学技術と結びついているために欠かせないものです。
 そこで物理では、物理基礎との関連を図りながら、さらに進んだ物理学的な方法で自然の事物・現象を取り扱い、観察、実験などを通して、物理学的に探究する能力を獲得していくことを目指します。

2 学習の到達目標

物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	探究の過程を重視した指導で、興味・関心と探究心をもって自然の事物・現象を物理学的に考察する能力と態度を身に付けさせる。	幾つかの事物・現象が同一の概念によって説明できることを実感させ、習得した概念や原理・法則を基に、その他の事物・現象の結果の予測や解釈をさせる。	観察・実験を中心に、科学の方法を適応しながら問題を解決していくという探究の過程をたどらせることによって、科学の方法を習得させる。	物理的な事物・現象に関する基礎的な知識及び基本的な概念や原理・法則を深く、系統的に理解させる。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・提出物 ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・提出物 ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	力と運動	平面内の運動 平面運動の速度・加速度 落体の運動	○	○	○	○	a: 平面運動をしている物体の速度や加速度、相対速度のどの表し方について学ぶ必要性を理解し、関心を示している。 b: 水平投射について、水平到達距離がどのように求められるか理解できている。 c: 水平投射について、初速度を変えたときどちらが先に落下するかを予測することができる。 d: 加速度はベクトル量であることを理解できている。	・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査
		剛体 剛体にはたらく力のつりあい 剛体にはたらく力の合力と重心	○	○	○	○	a: 大きさのある剛体に、どのような力を加えたら回転運動が起こるかに関心を示している。 b: 剛体にはたらく力がつりあうための条件を、様々な状況にある剛体について、判断することができる。 c: 厚紙でできた三角形の重心を幾つかの方法で求めることができる。 d: 力のモーメントについて理解している。	・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査
		運動量の保存 運動量と力積 運動量保存則 反発係数	○	○	○	○	a: 物体にはたらく力が一定でないとき、物体の運動がどのように変化するかということに関心を示している。 b: 物体にどのような力積と加えられたなら、どのような速度になるかを示すことができる。 c: 力の大きさや力を加える時間と、運動量の変化との関係について、あらかじめ予測し、実験により確かめることができる。 d: 平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。	・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査

2 学 期		円運動と万有引力 等速円運動 慣性力 単振動 万有引力	○	○	○	○	<p>a: 電車などの乗りものが急発進をしたり、急ブレーキをかけたるとき、車内の人に現れる力の原因について、興味を示している。</p> <p>b: 等速円運動の加速度を求める手順を説明することができる。</p> <p>c: ばね振り子や単振り子の周期を測定し、重力加速度の大きさを求めることができる。</p> <p>d: ばね振り子や単振り子の周期を表す式を導く家庭を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査
	熱と気体	気体のエネルギーと状態変化 気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化	○	○	○	○	<p>a: 気体の圧力や体積、温度を変えるとき、これらの量の間にはどのような関係が成り立っているのだろうかということに関心を示している。</p> <p>b: 気体の圧力、体積、絶対温度の関係について理解している。</p> <p>c: ボイルの法則、シャルルの法則を実験で検証できる。</p> <p>d: 気体の状態変化の「定積変化」「定圧変化」「等温変化」「断熱変化」をそれぞれ図や式で表すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査
	波	波の伝わり方 正弦波 波の伝わり方	○	○	○	○	<p>a: 波の反射や屈折の際に、どのような法則があるかに関心がある。</p> <p>b: 波の反射の法則・屈折の法則は、ホイヘンスの原理から説明できることを理解している。</p> <p>c: 波が伝わる動的なイメージを、正弦波の式をもとにして具体的にえがくことができる。</p> <p>d: 回折現象はどのようなときに起きるか、また波長との関係を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	音の伝わり方 音の伝わり方 音のドップラー効果	○	○	○	○	a: 音はどのように伝わるのかや、音のドップラー効果が身近なところで起きていることや応用されていることなどに興味・関心を示している。 b: 音の反射・屈折・回折・干渉について。物理基礎で学んだことをもとにして考えることができる。 c: ブザーを投げたり回転させたりして、実際にドップラー効果を体験し、確認している。 d: 昼に比べて夜のほうが遠くの音がよく聞こえる理由を説明できる。	・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査
	光 光の性質 レンズ 光の干渉と回折	○	○	○	○	a: 光にはどうして色があるのか、レンズを使うとなぜ物体が拡大・縮小されて見えるのかについて、興味・関心がある。 b: レンズを通る代表的な3つの光線を描き、写像公式を導くことができる。 c: 光学台を用いて写像公式が成り立っていることを検証することができる。 d: 写像公式を理解し、式の運用ができる。	・学習態度 ・出席状況 ・観察、実験の取り組み ・提出物 ・小テスト ・定期考査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 観察・実験の技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。